

子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 長野 報告書



2016年11月12日(土)、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 長野(以下、全国キャラバン in 長野)が長野県との共催で長野県教育会館ホールにて開催されました。会場には、第一部に約90人、第二部に約50人の方々がお越しくださいました。

午前中の第一部では、小河光治・代表理事のあいさつに続いて、共催代表として中島恵理・長野県副知事＝写真＝からごあいさついただきました。協力4団体である、信州子ども食堂ネットワーク、長野県NPOセンター、長野県みらい基金、フードバンク信州の代表のご紹介のあと、「今、長野で必要な子どもの貧困対策」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。パネラーには、轟寛逸・長野県県民文化部子ども・若者担当部長、宮下順・児童養護施設飯山学園園長、立花さくら・松本大学4年、西堀菜津美・長野大学3年にご登壇いただき、コーディネーターは吉田和花・あすのば子どもサポーター(津田塾大学3年)が務めました。行政、児童養護施設、また支援現場から見えることについて、それぞれの立場から発表していただいたあと、子どもたちの心の貧困と奨学金についてディスカッションを行い、必要な支援について考えました。



午後の第二部では、子どもの貧困に関する実話をもとにした映画の予告を観たあと、長野県で行われた子どもの声アンケートから経済面の声をまとめたものを発表し、長野県にも子どもの貧困が存在することを確認しました。そのあとに、「子どもの貧困事例における資源」をテーマとして、長野の子ども白書に取り上げられた記事を各班で読み、その事

例に出てくる子どもの周りにある資源について話し合い、模造紙にまとめました。まとめたものを全体で共有することで、自分の班では出てこなかった意見などを聞くことができ、視野を広げることができました。その後の意見交換会では、「どうして定年退職した教員は学習支援などを行わないのか」、「地方には大学生がいないため、どうしても祖父母世代が子どもたちの相談に乗るしかない」などの声が聞こえました。



参加者からは、「学生のみなさんの進行、企画がとても良かったです。子どもの貧困を大人の立場からではなく、当事者に近い立場から語っていただいたことで、議論に幅が出たと思います。様々な立場、様々な活動をしている方のお話がきけて、本当に勉強になりました。ありがとうございました。(50代女性)」、「私は生活困窮者事業にたずさわっています。今回のディスカッションでは取りあげていなかった問題も多くあり、また様々な問題が重複している世帯ばかりです。貧困問題を多くの方が考え、協働していけるといいと思います。(30代女性)」、「子どもの貧困はお金でなく、子どもの心の貧困の方が深刻な問題と思われる。(40代男性)」、「子どもの貧困が身近なところ、どこにもあることを多くの人に知ってもらうことが必要。そのために貴財団を含め民間団体の取組、行政の取組を連携させて啓発広報を進めていっていただきたいと思います。(50代男性)」などの感想をいただきました。

今回の全国キャラバン in 長野は、子どもの貧困問題に携わっている多くの学生や団体などの方々のご協力があり、開催されました。協力、後援、助成くださいましたみなさま、ご参加いただきましたみなさまに心からお礼申し上げます。

【子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 長野】

日時：2016年11月12日(土)第一部 10時~12時 第二部 13時~16時

場所：長野県教育会館ホール/主催：公益財団法人あすのば/共催：長野県

協力：信州こども食堂ネットワーク・長野県NPOセンター・長野県みらい基金・フードバンク信州 (50音順)

後援：内閣府・長野県教育委員会・長野県経営者協会・長野県社会福祉協議会・長野県長寿社会開発センター・長野市・長野市教育委員会・ホットライン信州・連合長野・労協ながの

助成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：第一部 約90人 第二部 約50人 合計 約100人が参加